

地域の遊休農地・水路・農道を住民一体となって保全
新たな生産品目の導入や
6次産業化にも繋がる

兵庫県淡路市「北淡路農地保全協議会」

取材・文／佐々木泉 写真／多田昌弘 写真提供／北淡路土地改良区



(上)北淡路農地保全協議会代表の相坂有俊さん(中央)と、北淡路土地改良区の皆さん。(右)「農地維持支払交付金」の取り組みとして行う農道の草刈り。(左下)淡路島北部に位置する北淡路土地改良区。山林を造成して農地を拓いた。(右下)土地改良区内には、淡路の特産である常盤ぶどう狩りが楽しめる観光農園も充実している。

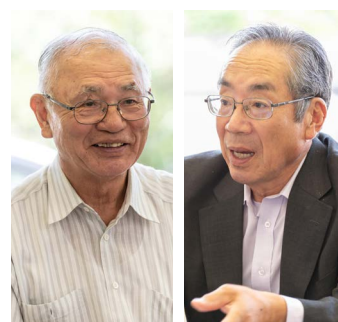


温州ミカンの産地づくりから多角経営へ
国営事業で拓いた農地を守る

瀬戸内海に位置する兵庫県淡路島。本土側とは明石海峡大橋、四国側の徳島県とは大鳴門橋で架橋されており、瀬戸内海では最も大きな島です。

島の北部をエリアとする「北淡路土地改良区」が設立されたのは昭和43年。同年からスタートした「国営北淡路農地開発事業」による農地開発が契機です。平坦地の多い島の南部に比べ、北部は山間地域が多い地形で、農業振興の妨げになっていました。

「農地開発にあたって、主品目として導入したのは温州ミカンです。当時は出荷価格もよく、農家の収益増にもつながりましたが、その後のミカンの輸入自由化で経営の変更に余儀なくされました。ミカンに代わる品目として、イチジクやブドウなどの果樹、野菜や花卉と幅広く手掛けています。但馬牛になる仔牛の繁殖も盛んなので、飼料用の牧草地が多いのも特徴です」と話すのは北淡路土地改良区理事の中山茂樹さん。国営事業が終了したのは平成元年。時代の変遷に合わせて農業経営を工夫し、平成26年度



左が北淡路土地改良区理事の中山茂樹さん、右が北淡路農地保全協議会代表の相坂有俊さん。

から「多面的機能支払交付金」を活用しています。活動団体として結成したのが「北淡路農地保全協議会」。改良区45団地のうち27団地で実施しており、活動計画の作成や会計、経理などの事務処理は改良区が担うことで、組合員の負担軽減を図っています。認定農用地は146.5ha、開水路9.2km、パイプライン42.9km、農道22.3km、ため池17カ所の維持管理を行っています。

施設の補修だけでなく協働意識も深まる
新たな生産品目導入や6次産業化も

「農地維持支払交付金」では農用地法面やため池の草刈り、水路やため池の泥上げ、遊休農地発生防止などの活動を団地ごとに行っています。

また、「資源向上支払交付金」では農業用施設の軽微な補修や農村環境保全活動に取り組んでいます。農村環境保全活動では、地域住民の方々も参加して遊休農地にコスモスを植栽するなど、景観形成・生活環境保全に取り組んでいます。また、当改良区では、アオコ発生を未然に防ぐため、定期的なため池の水質調査を行っています。幅広く活動を展開していますが、なかでも「水兼道路の補修に力を入れています」と語るののは協議会代表の相坂有俊さん。

「水兼道路とは、その名の通り、水路と農道を兼ねた道路のことです。道路につきものの側溝をつくらず、広い道路幅員を確保し大雨のときなどは道路全体で水を流すことで被害を最小限に抑える仕組みです。北淡路では耕作道路として広範囲に造成しているのが特徴で、先日の台風の時も被害はほとんど

ありませんでした。ただ、路面の整備が不可欠なので、計画的に補修作業を進めています」

年度ごとの作業計画は27団地の班長が集い、話し合いで決めます。例えば、長寿命化の活動では緊急度により優先順位を決め、水路やポンプの補修、更新を実施。その際の工事の発注や見積もりなどは改良区で担います。定期的に班長会議を開くことで地区同士の情報交換、課題の共有化が図られ、協働意識も深まってきました。

「多面的機能支払交付金」の取り組みがきっかけとなり、新たな生産品目の導入や6次産業化にも繋がっています。北淡路土地改良区としても遊休農地を増やさないうために、農業の企業参入による担い手づくりに取り組んでおり、これまでに23社が参入しています。北淡路の特産でもあるタマネギをはじめとした野菜、花卉、ブルーベリーなど品目はさまざまです。

「最近増えているのはオリーブですね。また、イタリアで有名な『デュラムコムギ』を栽培している企業もあります。パスタに適した小麦なので、島内の製麺業者では生パスタに加工しています。また、始まったばかりの取り組みで、デュラムコムギの作付け面積も5haほどですが、企業とも連携することで、新たな特産品が誕生するかもしれません」

また、観光業との協働も視野に入れていると相坂さん。淡路島は瀬戸内の観光地でもあります。現在、トマトやイチゴのもぎ取り体験ができるハウスを建設中の企業があり、完成すれば1.5haの規模を有する体験施設になるそう。農業プラスα、今後の展開が楽しみです。

「農地維持支払交付金」での取り組み



農用地法面や農道などの草刈りは年に数回共同作業で行う。



「資源向上支払交付金」での取り組み



水兼道路の補修作業。ひび割れた路面などを補修。

北淡路土地改良区 昭和43年11月1日設立。農地面積350ha、組合員数650人。「国営北淡路農地開発事業」の農地開発を契機に設立された。役員12名(理事9人、監事3人)、総代30名、職員3名。ダムや揚水機など用水施設の管理を主な業務とし、新規就農を希望する企業や団体の相談にも随時対応。農業への企業参入を積極的に推進し、耕作放棄地の解消にも努めている。6次産業化を目指す企業も多く、農業の多角化を図っている。

お問い合わせ 0799-82-0387